

講義名	対)統計の方法論研究		
担当教員	田中 康仁		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
<b>主題と概要</b>			
<p>本講義では、統計的手法を用いた研究をおこなう際に必要になる数値のデータの取り扱い方を修得します。具体的には、消費者行動に関する数値のデータの処理について、エクセルなどの統計ツールやRなどの統計言語（環境によります）を使用し、実習形式で説明をしていきます。</p>			
<b>到達目標</b>			
<p>この講義では次の4つの目標を設定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 統計パッケージの基本的な操作ができる</li> <li>(2) 基本統計量の計算ができる</li> <li>(3) 仮説検定の方法が理解できる</li> <li>(4) 多変量解析の概念が理解できる</li> </ol>			
<b>提出課題</b>			
毎回提出してもらう課題と最終レポートがあります			
<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>			
課題の講評・解説については、講義内にて行います。			
<b>評価の基準</b>			
<p>課題提出 70% 最終レポート 30%</p> <p>PC実習で積み上げ型の講義です。 遅刻や欠席を防ぐために毎回出席をとります</p>			
<b>履修にあたっての注意・助言他</b>			
数学の知識は、中学生レベルで十分理解できます			

<b>教科書</b>					
.使用しない。					
<b>プリント資料及び参考文献</b>					
随時指示します。					
<b>授業計画</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 消費者行動と統計分析（概説）</li> <li>2 エクセル（もしくはSPSS）の基本操作</li> <li>3 基本統計量</li> <li>4 散布図と相関（1）</li> <li>5 散布図と相関（2）</li> <li>6 2変量の差の検定 - t検定（1）</li> <li>7 2変量の差の検定 - t検定（2）</li> <li>8 一元配置の分散分析、カイ二乗分析</li> <li>9 回帰分析（1）</li> <li>10 回帰分析（2）</li> <li>11 主成分分析</li> <li>12 因子分析（1）</li> <li>13 因子分析（2）</li> <li>14 いろいろな多変量解析</li> <li>15 総合演習</li> </ol>					
<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>					
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A.L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）					
<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>					
<p>* 自回に指定するテキストの範囲を熟読し、要点をまとめておくこと： 各2時間×15回=30時間          * 自回の講義内容の復習： 各15時間×15回=15時間          * 期末レポートの作成： 15時間</p> <p>合計 60時間</p>					
<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b>					
<p>大学院のDPに「理論的・実証的な課題を研究するために必要な科学的的方法論を身につけていること」とあります。本講義は、修士論文を作成する過程においてアンケート調査により得られた定量的なデータを統計的な方法により解析する手法を習得します。</p>					
<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>					
<b>実務経験の有無及び活用</b>					
<b>備考</b>					